

建設経済委員会 所管事務調査報告書

令和6年4月26日

犬山市議会議長

柴 田 浩 行 様

建設経済委員長

玉 置 幸 哉

本委員会は、地方自治法第109条第2項及び犬山市議会会議規則第97条第1項の規定に基づき、下記の事項について調査したので、犬山市議会会議規則第102条の規定に基づき報告します。

記

1. 調査事項

木曽川河川空間利用と回遊性を高める新たなルートについて

2. 調査目的

木曽川河畔は豊かな自然があるがその可能性を有効に活用されてはいない。また、現状の犬山駅から城下町を通ってのルートは訪れる人の多さから歩行者の安全も危惧されることから、犬山遊園駅、犬山口駅を活用しながらの新たなルートを考えるとともに、新たな街づくりに繋がるよう周辺自治体とも連携し共存できるよう「木曽川河川空間利用と回遊性を高める新たなルートについて」調査を行う。

3. 調査方法

(1) 先進地への行政視察

①静岡県熱海市

日 時 令和5年10月3日 午後2時から午後4時まで

場 所 静岡県熱海市役所

出席委員 6名（全員）

テ ー マ 観光振興施策について

主な内容

- ・官主導ではなく、温泉組合や旅館組合が設立されており組合が実施主体となって観光事業を推進している。
- ・首都圏や関東圏からの観光客が多いため、宿泊に繋がりやすい。
- ・観光客が低迷した際には、市と商工会議所が連携し、起業支援やロケ誘致、熱海ブランド商品の開発等に取り組み、V字回復に至った。
- ・財源確保のため、観光目的税や宿泊税の導入についての

検討を進めている。

②東京都墨田区

日 時 令和5年10月4日 午後1時から午後3時まで
場 所 隅田川テラス
テ ー マ 隅田川テラス事業について
出席委員 6名（全員）
主な内容

- ・川岸の耐震補強と共に、歩行空間にもなるテラスを整備している。また、動線強化のため、テラスが不連続になっている箇所解消に努め、照明を設置している。
- ・公共用地の定期借地による官民連携事業として、両国リバーセンターを設置し、ホテルやレストラン、公共施設も設置している。
- ・隅田川サポーターとして、隅田川に関心があり活動したい人を募り、情報発信の強化や民間活力を引き出す取り組みを実施している。

(2) 当局との意見交換

日 時 令和5年10月17日 午後1時から午後2時24分まで
場 所 第3委員会室
出席委員 5名（1名欠席）
出席者 都市整備部次長、都市計画課長、土木管理課長、観光課長
主な意見

- ・居心地が良く歩きたくなる水辺空間を創出するために、夜間の照明や子どもの遊び場の併設等を検討してほしい。
- ・隅田川サポーターを参考に、木曽川サポーターを作って情報発信や交流を促してはどうか。
- ・木曽川の場合は、住民の生活圏がすぐ傍にあるため住民の意見を聞くことは不可欠であるが、常識にとらわれない構想のためのリーダーシップも必要である。
- ・観光の視点と合わせて、都市整備部のノウハウや国土交通省との連携・信頼関係を強化することが重要である。
- ・宿泊の強化を進めるためには、温泉組合の復活など新たな観光コンテンツが必要となる。

(3) 現地調査

日 時 令和5年12月14日 午後1時30分から午後2時15分まで
場 所 木曽川河川敷
出席委員 5名（1名欠席）
出席者 都市整備部長、経済環境部長、観光課長

主な内容 木曽川河畔空間整備事業の基本構想について、現地の確認及び担当課から進捗状況や課題の説明

(4) 委員間討議（課題の抽出）

日 時 令和5年12月14日 午後2時39分から午後2時46分まで

場 所 第3委員会室

出席委員 5名（1名欠席）

主な意見

- ・木や歩道の整備、車道との高低差など解決しないといけない課題が多くある。今後の市の動向に注目していく。
- ・基本構想の実現に向けては、地域住民の意見を聞くばかりでなく、理解を得られるようなアプローチが必要。
- ・委員会としては、構想が設計に活かされるよう助言をしていきたい。
- ・犬山遊園から犬山駅への回遊性をつくる流れは良い計画である。
- ・市の重点施策であるが、市の財政状況を踏まえた資金計画を立て、民間との連携を強化しながら進める必要がある。

(5) 委員間討議（調査結果まとめ）

日 時 令和6年2月8日 午前10時26分から午前10時51分まで

場 所 第3委員会室

出席委員 6名（全員）

主な内容 所管事務調査報告書案について

- ・河川空間利活用計画は、観光面だけでなくハード面の整備が重要である。部を越えた連携を図ることが重要である。

4. 調査結果

委員間討議を踏まえ、以下の2点について意見集約した。

- (1) 当市の観光の弱点である宿泊客数の増加に繋がるとともに、犬山城下町や木曽川河畔の回遊性を高める重要な施策であるが、多額の費用とマンパワーが必要となるため、観光課と都市整備部が連携を強化しながら事業を推進すること。
- (2) 地域住民の意向が重要な視点となるため、これまで以上にコンセンサスを得ながら進めること。